

令和5年度 全国学力・学習状況調査 調査結果報告及び分析（横浜市立さちが丘小学校）

本年度、4月18日に調査が実施された「令和5年度全国学力・学習状況調査」の結果集計データを基に、本校第6学年児童の学力及び学習状況について分析を行いました。分析結果を今後の学習指導及び教育活動の向上に活用し、取組みを進めていきます。保護者の皆様におかれましては、各家庭での学習の参考にしていただければと思います。各家庭にお届けした個人の結果と当分析とを比べてご覧いただくことでより状況が分かりやすくなります。今後とも本校の教育活動にご理解・ご協力よろしくお願い申し上げます。

1. 「令和5年度 全国学力調査 結果概要」（本校対象児童数：104名）

（1）国語科の調査結果及び分析

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
横浜市立さちが丘小学校	104	9.6 / 14	69	10.0	3.1
神奈川県(公立)	68,738	9.3 / 14	66	10.0	3.1
全国(公立)	964,177	9.4 / 14	67.2	10.0	2.9

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			貴校	神奈川県(公立)	全国(公立)	
全体		14	69	66	67.2	
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	73.5	70.1	71.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	65.4	64.3	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	73.4	70.4	72.6
		B 書くこと	1	27.9	25.6	26.7
		C 読むこと	3	72.4	70.4	71.2

国語科の調査結果においては、全国平均及び神奈川県平均正答率を若干上回る結果となった。観点別に見ても「知識・技能」「思考・判断・表現」共に平均値正答率の正答率を上回っていた。国語科の学習時間や朝のスキルタイムにおいて、言語表現や新出漢字の習得に取り組んできたことが基礎知識の定着につながってきていると考えられる。また、本校が重点的に取組みを進めている「語り合い」「伝え合い」の学びも結果に反映されていると考えられる。

全国の平均正答率でも同様の結果となっている

が、記述（書くこと）で解答する問いについて全3問中、正答率が50.3%という結果となった。特に、【問題番号1二】の図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表す問いでは、正答率が27.9%と約4人に1人しか正答することができなかった。定着してきている基礎知識を活かして、自身の考えを文章で表現していく「思考力・判断力・表現力等」について、国語科の学習時間内での学習展開を工夫するなど、指導の工夫を凝らしながら学びを進めていきたいと考える。

- ・言語習得に向けた学習時間の確保を引き続き行い、基礎知識の定着を図っていきます。
- ・テーマに沿って的確に自身の考えを文章で表現することができるよう、学習時間に「書くこと」の場面を多く取り入れて表現力を磨いていきます。



(2) 算数科の調査結果及び分析

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
横浜市立さちが丘小学校	104	10.6 / 16	67	11.0	3.5
神奈川県(公立)	68,739	10.1 / 16	63	11.0	3.9
全国(公立)	964,350	10.0 / 16	62.5	11.0	3.8

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			貴校	神奈川県(公立)	全国(公立)
	全体	16	67	63	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	70.4	67.1	67.3
	B 図形	4	49.3	50.0	48.2
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	77.9	72.3	70.9
	D データの活用	3	71.5	65.2	65.5
評価の観点	知識・技能	9	72.2	67.8	67.2
	思考・判断・表現	7	59.2	57.2	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			

算数科の調査結果においては、全国平均及び神奈川県平均を約4%上回る結果となった。観点別に見ても、「知識・技能」において正答率が平均値を5%以上上回り、本校学年全体として基礎学力の定着が見られた。また、同様に「思考・判断・表現」の正答率も平均を上回った。本校が3年間重点研究として算数科の指導法の研究に取り組み、児童が算数科に対する理解や興味を高めてきた一つの成果が結果から見られた。

今後の課題としては、【領域B 図形】の理解・表現を高めることが挙げられる。今年度の調査で神奈川県の平均正答率を唯一下回っていた。その中でも、選択式問題の「正三角形の意味や性質」についての問いが正答率26.9%。記述式問題の「三角形の面積の関係」についての問いが正答率19.2%という結果になっている。全国的に見ても正答率は低いものの、図形に関する領域について重点的に既習事項を確認し、理解を深めていきたいと考える。

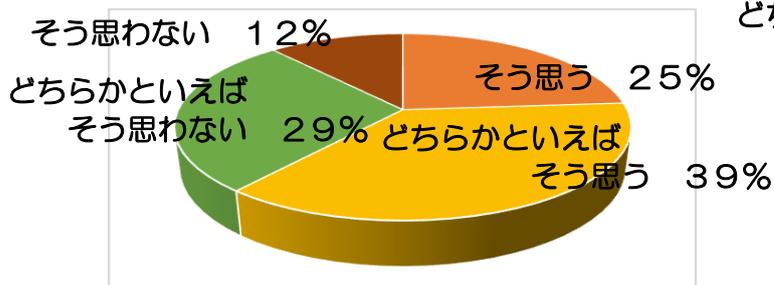


- ・習得した算数科の知識・技能を活かし、学習の積み重ねを意識した学習展開に取り組めます。
- ・スキルタイム等の時間を活用し、既習の内容を復習する機会を設定します。また、児童の「分かった」という思いを「伝えたい」につなげて表現できるよう指導していきます。

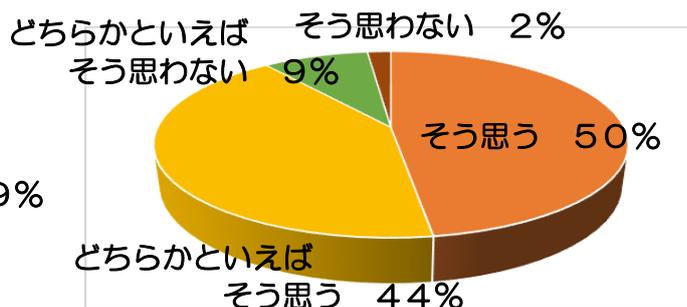
2. 「令和5年度 全国学力調査 生活状況調査 結果概要」 (本校対象児童数：104名)

生活状況調査においては質問項目数が多数に及ぶため、調査結果について下記の2項目に絞り紹介させていただきます。全体としては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答が各質問項目全国平均値をほぼ上回る結果となりました。全体の数値や平均値を下回ったものを更に分析し、全学年の指導につなげていきます。

○困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。



○学校に行くのは楽しいと思いますか。



その他の調査結果をご覧になりたい際には、必要に応じて対応いたしますので、本校副校長(大山)までご連絡ください。(045-361-0777)